

健康保険直方中央病院の臨床指標の報告に当たって

<はじめに>

当院における平成18年から平成22年までの診療のありのままの姿を「臨床指標」としてまとめ表にしました。病院の大きさ（病床数で判ります）や機能（急性期病院又は慢性期病院）をはじめ、病院が専門とする病気、受診される患者様の内容などが違い数値だけで他と比較することは出来ませんが、大まかな目安にして頂くとともに当院の素顔をみて頂けたら幸いです。

内容は、1) 病院全体の指標、2) 予防医療に関する指標から、7) 患者満足度まで7つの大項目と19の小項目に分けています。各々の項目が、この5年間で少しずつ好ましい方向に向かっております。この事も皆様のご指導、ご支援の賜と感謝しております。

今後も、皆様のご指導、ご指摘を頂き、医療の質の向上に職員一同、日々努めていきたいと考えておりますのでよろしくお願い致します。

平成23年2月24日

院長 野田 晏宏

診療情報管理室 岩村 卓也

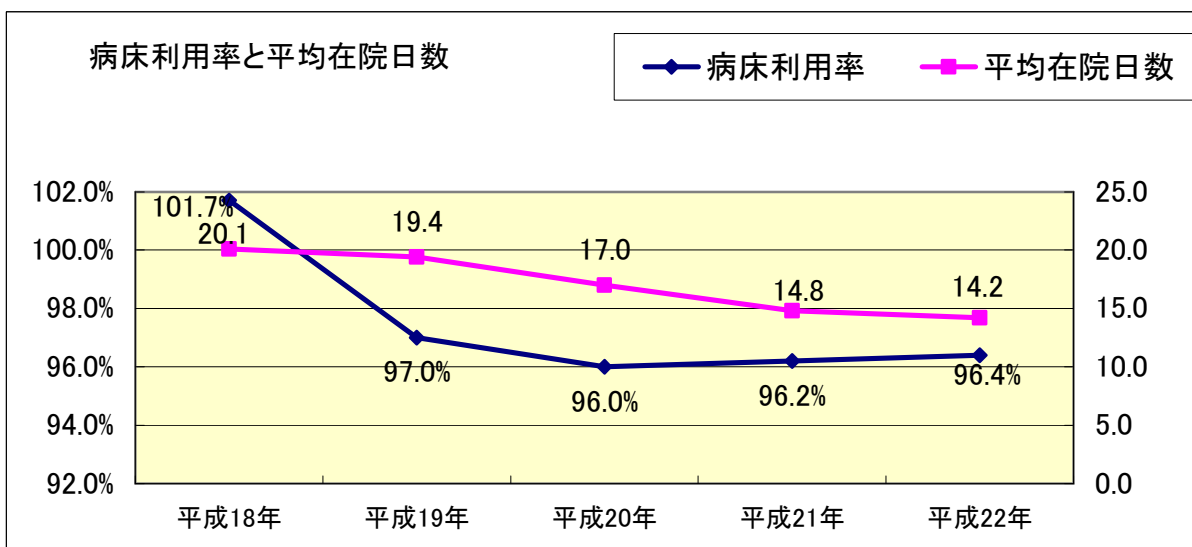
鶴田 貴志

1) 病院全体の指標

<臨床指標の説明>

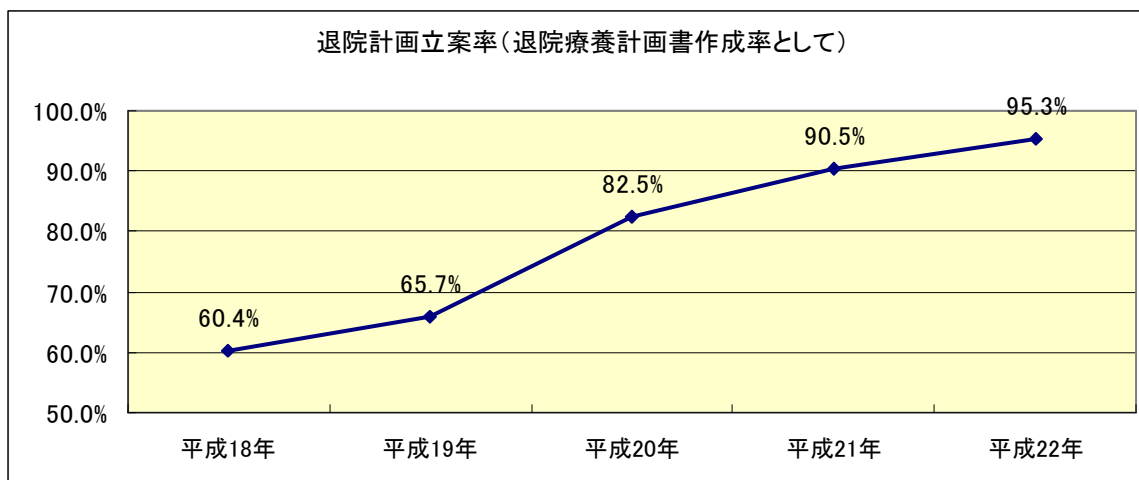
①病床利用率、平均在院日数

病床利用率は入院ベッドが利用された割合を示し、平均在院日数とは、入院された患者様が何日で退院されたかを示します。平均在院日数が短くなると一般的に病床利用率は下がります。しかしながら当院では、平均在院日数が徐々に短くなる中、平成19年以降病床利用率は96%台を保っておりますので、相対的に入院患者様が增加している事を意味しています。



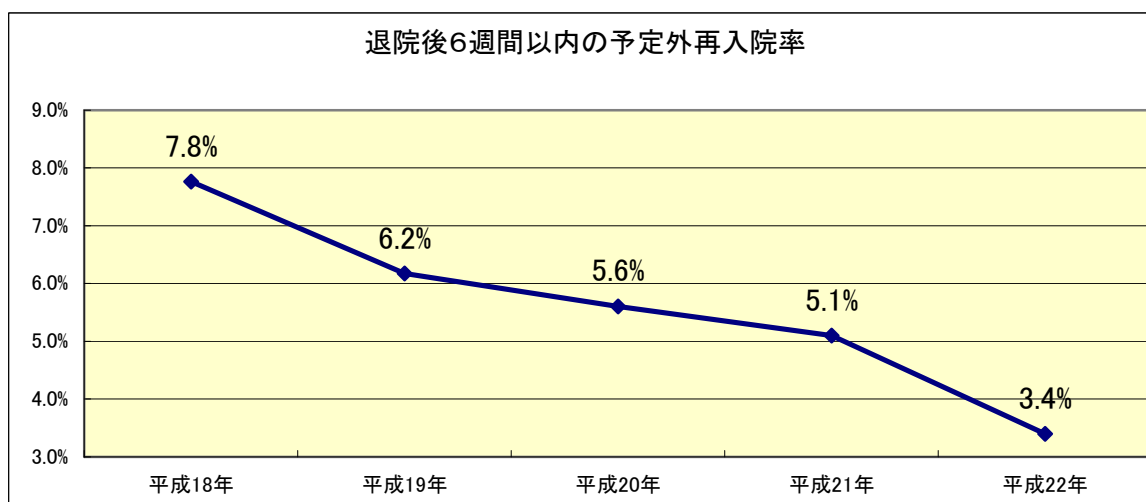
②退院療養計画書作成率

退院療養計画書とは、患者様が退院後に必要な保健・医療または福祉サービスなど受ける際に必要な書類です。当院では、年々作成率が上昇し、平成22年には95%となっています。この作成率が高いことは、退院後の患者様の生活まで十分配慮している事を示します。



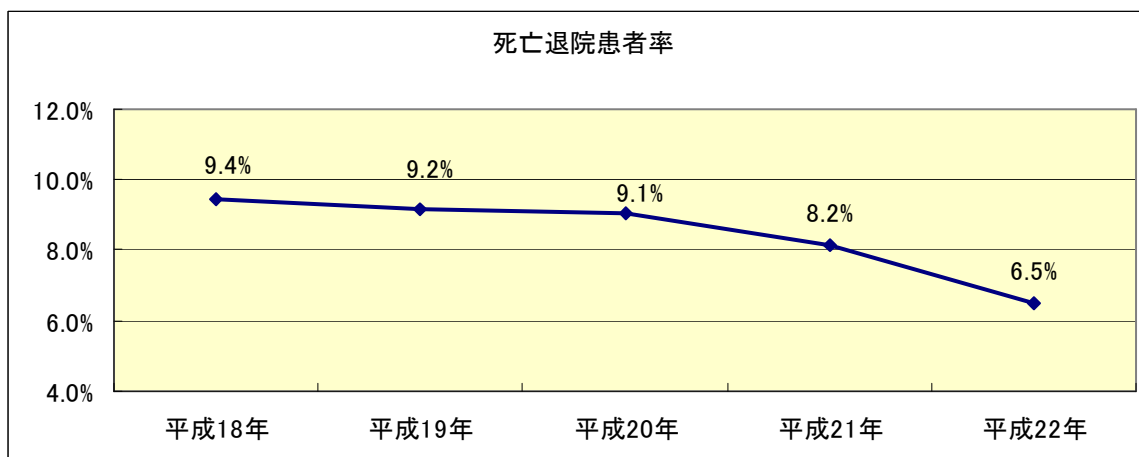
③退院後6週間以内の予定外再入院率

短期間での予定外再入院率は医療の質を示す指標の1つと考えられ、入院率が低いほど医療の質は上がります。当院では、入院患者様が増えている状況の中、再入院率が低下しています。これは、医療の質が向上している事を示しています。



④死亡退院患者率

死亡退院患者数を年間退院患者数で割った率です。病院によって入院される患者様の重症度が異なる為、数字のみの比較は非常に問題が多く、むしろひとつの病院における毎年の変化に興味があります。当院では、死亡退院患者率は年々確実に下がっております。

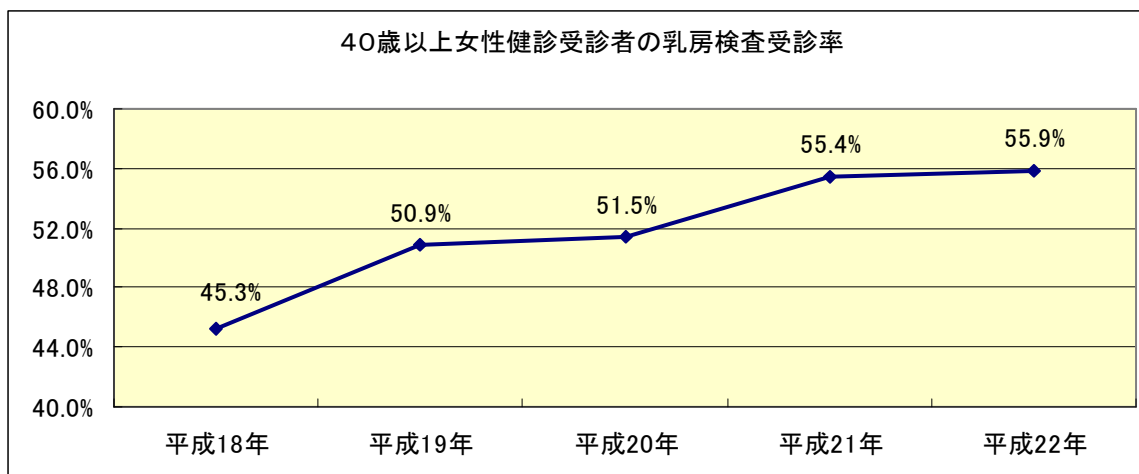


2) 予防医療に関する指標

< 臨床指標の説明 >

① 40歳以上の女性健診受診者における乳房検診受診率

現在、40～50歳代の女性において、乳癌が癌死亡原因の第1位で、大きな社会問題となっております。乳癌健診の受診率を上げることは、医療の質の向上を示します。当院において受診率は年々上昇しております。

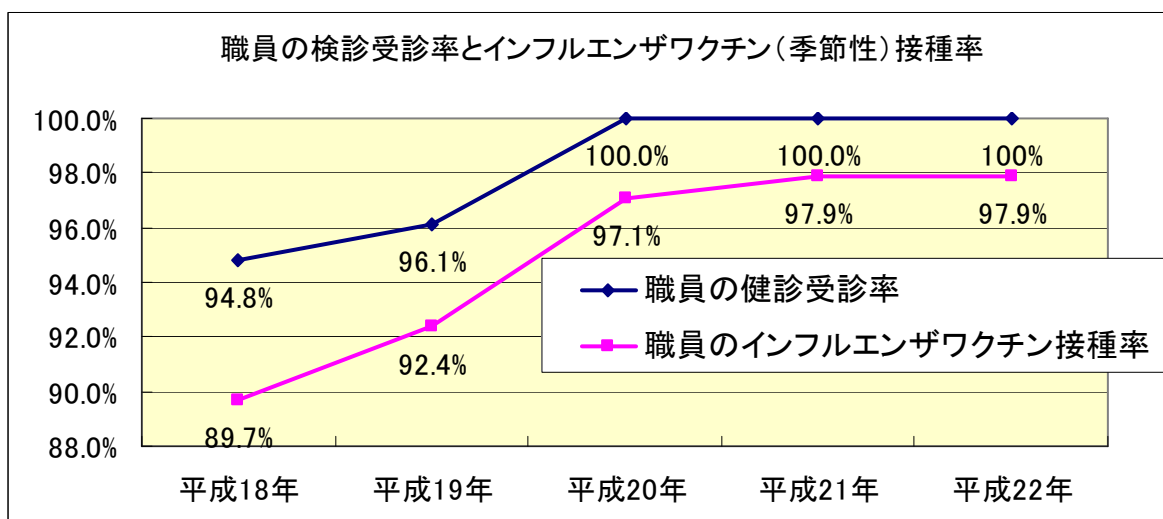


② 職員の健診受診率

患者様と接する機会が多い医療従事者が、定期的に健康診断を受ける事は非常に重要です。当院では、平成20年以降では全職員が受診しております。

③ 職員のインフルエンザワクチン接種率

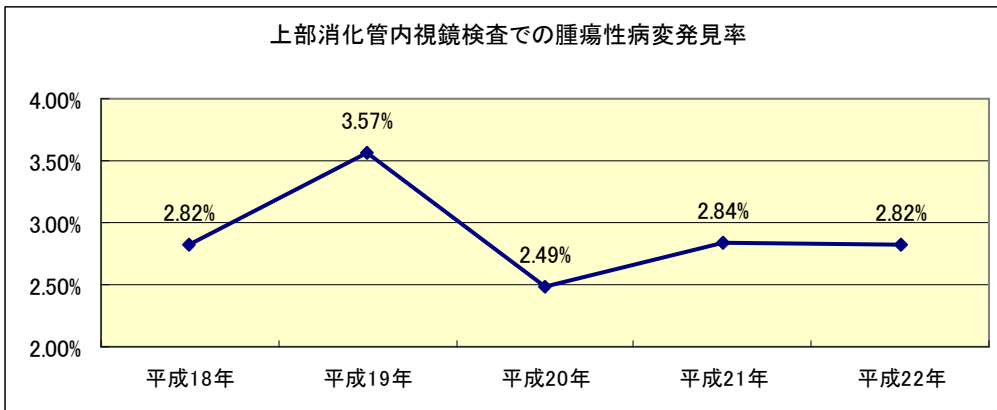
医療従事者がインフルエンザワクチン予防接種を受ける事は、免疫力、抵抗力が低下している患者様への感染を予防する上で非常に重要です。当院でも98%近くの職員が接種を受けています。



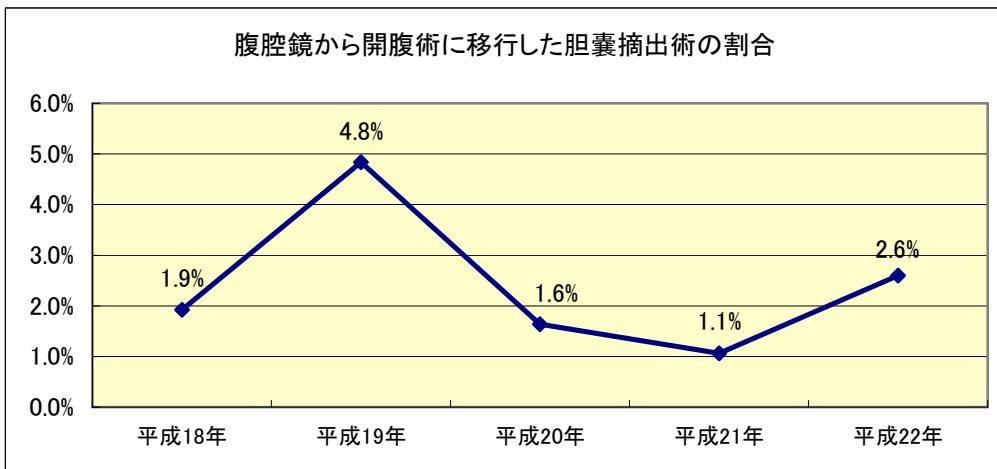
3) 治療手技・手術

< 臨床指標の説明 >

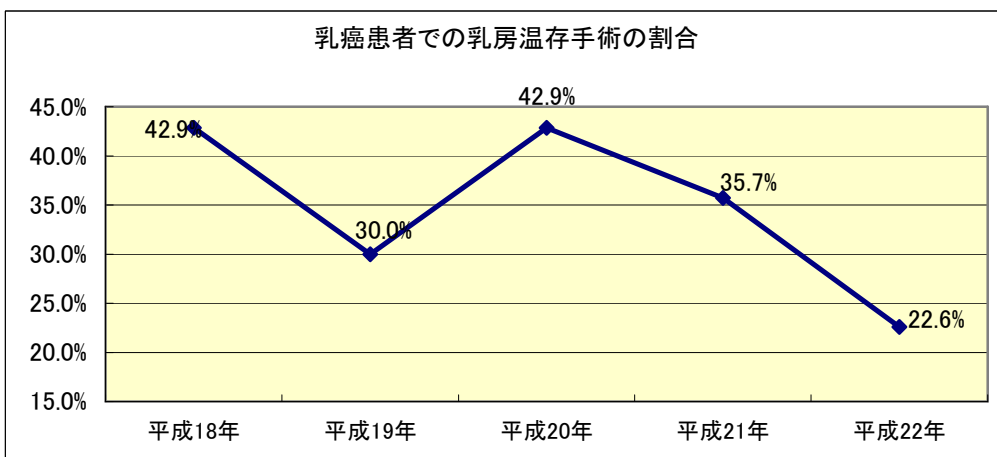
- ① 上部消化管内視鏡検査（胃内視鏡又はいわゆる胃カメラ）での腫瘍性病変発見率
検査の目的の1つは癌などの腫瘍性病変を早期発見することです。当院では3%前後となっています。



- ② 腹腔鏡から開腹術に移行した胆嚢摘出術の割合
胆嚢を取り除く手術の時、お腹をあけずに行なう腹腔鏡下胆嚢摘出術を最初に行ないます。手術の途中で、胆嚢が取れない場合はやむを得ず、開腹して胆嚢を摘出します。平成22年では78件の手術のうち2件で、胆のうの癒着（胆のう炎などの為、胆のうが肝臓にこびりつくこと）があり、腹腔鏡下から開腹術に移行しました。



- ③ 乳癌患者での乳房温存手術の割合
乳房温存療法は、主に3cm以下の早期乳癌の標準的な手術です。平成22年では乳癌手術例数が31件の手術のうち7件で乳房温存手術を実施しました。

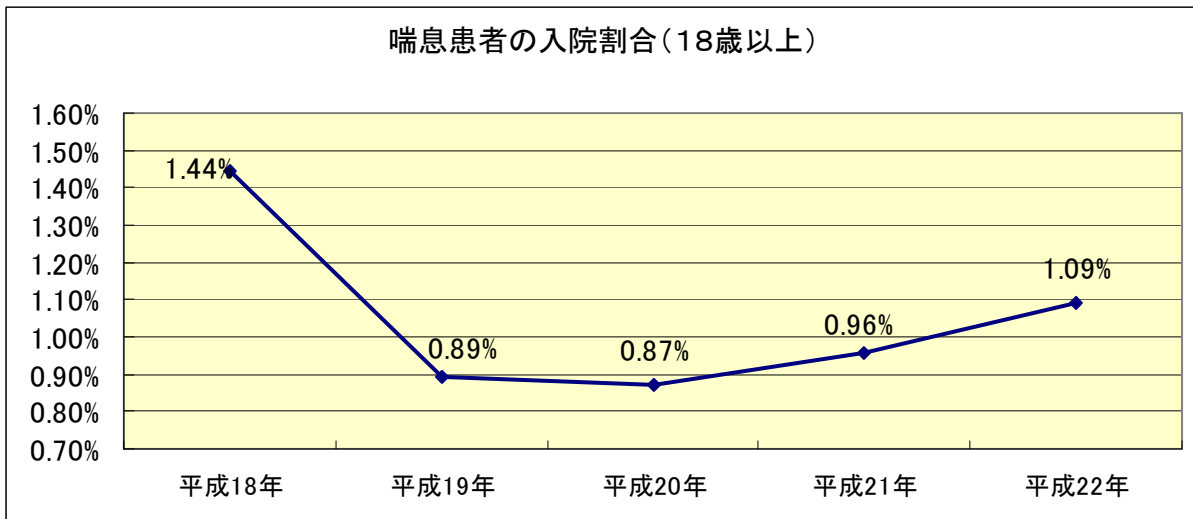


4) 診療経過とその結果に関する指標

< 臨床指標の説明 >

①喘息患者の入院割合（18歳以上）

当院は喘息患者様の入院率を減らす為に、喘息発作予防に効果のある吸入治療薬の正しい使い方や、発作の際の対処法、受診の適切な時期などについて指導しています。当院における入院割合は1%前後で推移しています。

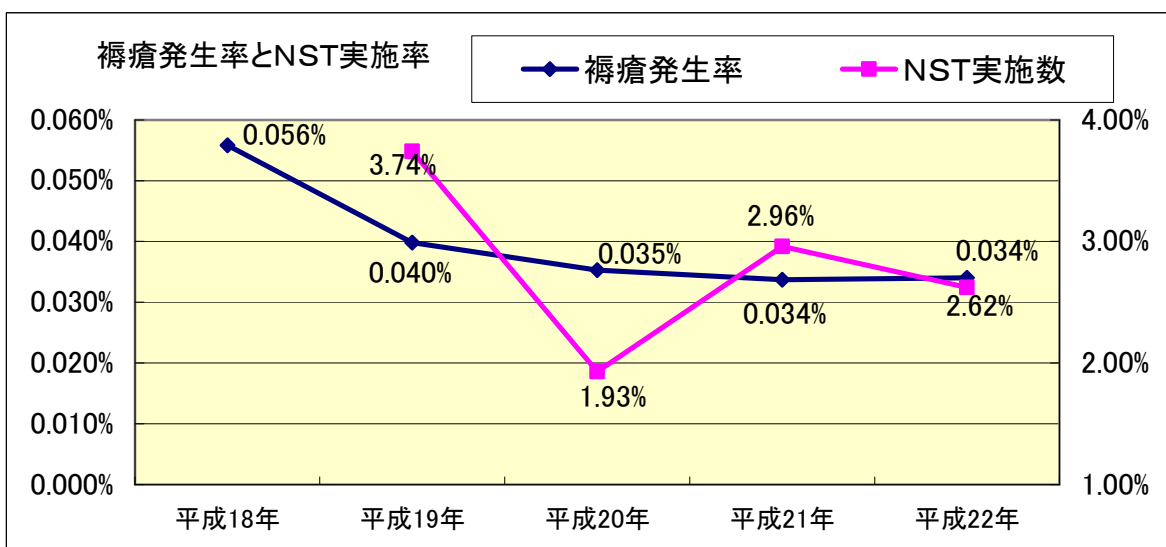


②褥瘡（じょくそう：床ずれ）発生率

褥瘡（床ずれ）の発生率は全身管理が適切であるか、局所の世話などがいき届いているか、看護の質を表す良い指標となります。当院では年々発症率が減少し0.034%（一万人中3.4名）となっています。

③NST 実施率

NSTとは栄養支援チームの意味です。NSTの目的は医師、看護師、栄養士、薬剤師等がチームとなり患者様の栄養状態を改善して抵抗力や免疫力を高めて病気を治療しやすくします。NST実施率は、患者様の全身管理に病院全体で取り組んでいる事を示します。平成22年のNST実施率は2.62%となっています。

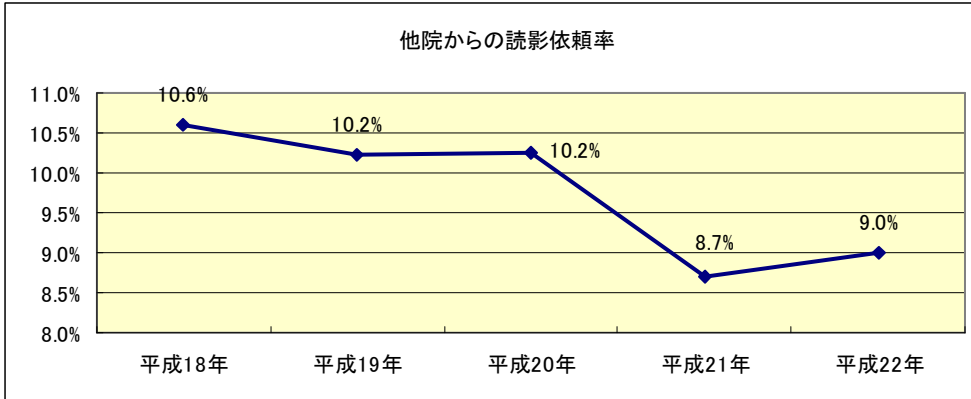


5) 検査

< 臨床指標の説明 >

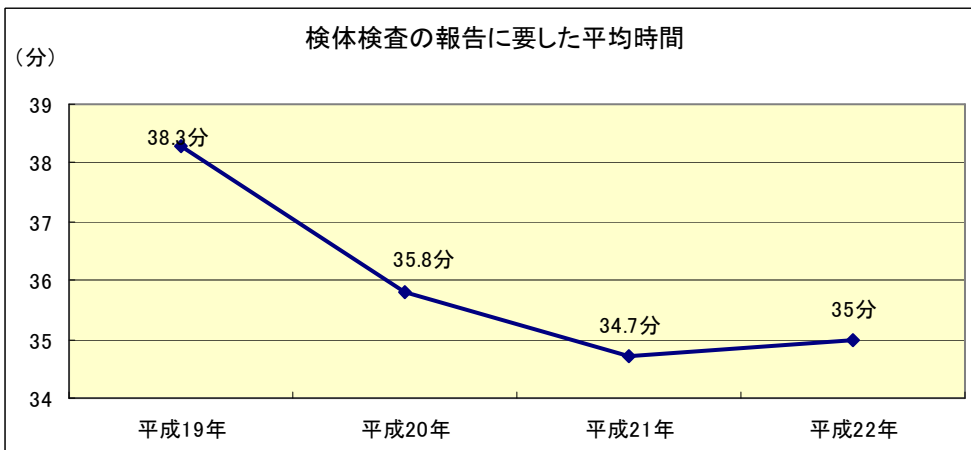
①他院からの読影依頼率

地域医療を担う当院では、他院からの読影依頼の状況が地域医療機関から信頼されている度合いの1つの指標となります。平成22年では、依頼率はわずかの増加ですが、外来患者数が増加している為、依頼件数としては大きく増加しております。



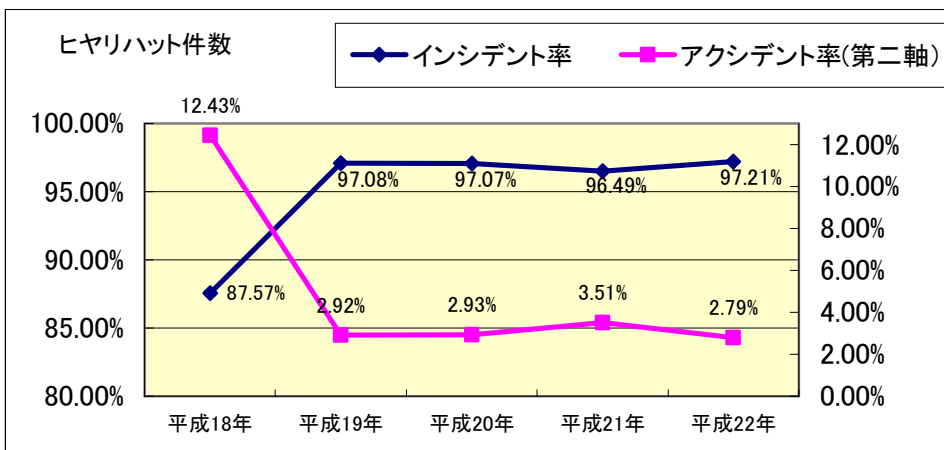
②検体検査の報告に要した平均時間

血液検査結果報告にかかる時間は、診断や治療のスピードや、診察待ち時間に関わる重要な指標です。当院では、報告の平均時間が年々短縮されております。



6) 医療安全

①ヒヤリハット件数 インシデント率 (医療事故までに至らなかった事例率)、アクシデント率 (医療事故率) 医療事故を予防する方法として、アクシデント手前のインシデントを多数集めて分析し対策を立てます。そしてその対策を職員が実行し医療事故を予防しています。当院ではインシデント率が増え、アクシデント率が少なくなっています。

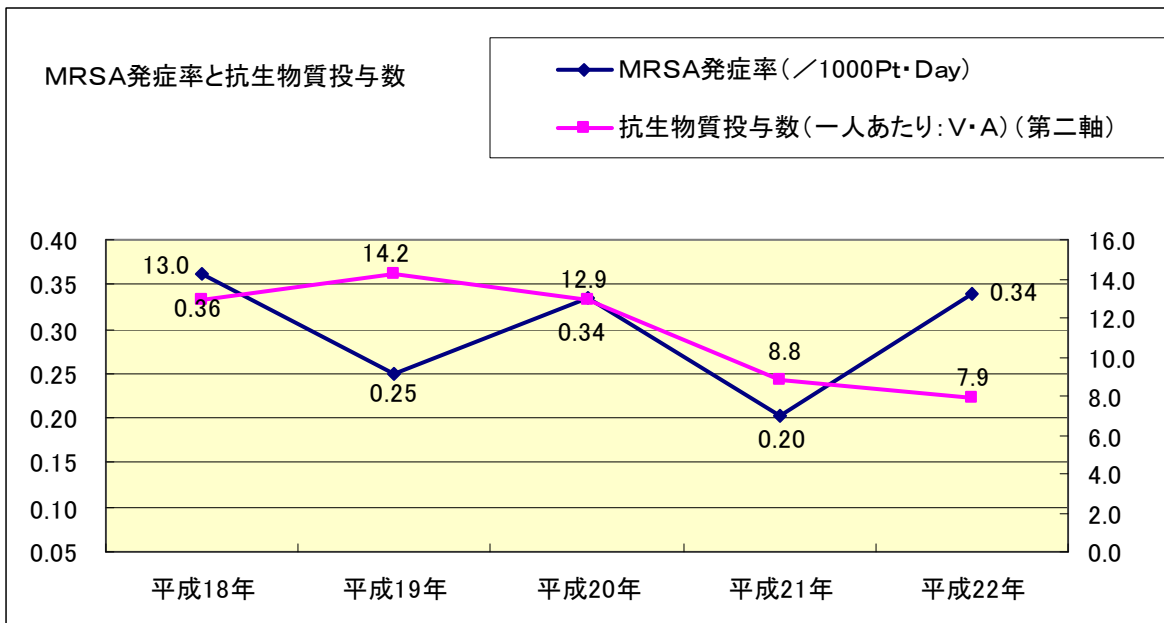


②MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌：抗生物質が効かない細菌の一種）発症率

MRSA 保菌者のほとんどは、入院前から MRSA を持っておられる方々です。これらの方々からの伝染を防ぐ事が MRSA 感染対策また院内感染対策の最も重要な課題です。当院では平成 21 年に 0.20 へ減少しましたが、平成 22 年では 0.34 と増加しました。

③抗生物質投与数

患者一人当たりの抗生物質投与数を把握する事は、抗生物質耐性菌（薬が効かない細菌）の発生を防ぐ為に重要です。当院では一人当たり 13.0（平成 18）14.2（平成 19 年）12.9（平成 20 年）で推移しており、平成 22 年は更に 7.9 と下がりました。



7) 患者満足

①投書中に占める感謝と苦情の割合

投書のうち、感謝の意見の増加は、患者様の満足度の向上を意味します。苦情については苦情を基に改善することにより、最終的に感謝の増加へと結びつきます。当院では、患者様からの感謝の割合が年々増え、苦情の割合が確実に減少しています。

